

第3回安曇野赤十字病院建設支援検討委員会 会議概要

- 1 委員会名 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会（伊那中央病院視察）
- 2 日 時 平成18年11月9日（木） 午後2時00分～4時20分
- 3 会 場 伊那中央病院
- 4 出席者 萩原委員、澤海委員、西山委員、青木委員、等々力委員、腰原委員、
曾根原委員、宮澤委員、山崎委員、遠藤委員、小林委員、藤森委員
- 5 市側出席者 土肥企画財政部長、堀田健康福祉部長、飯沼企画政策課長、猿田企画担当係長
宮下健康推進係長、黒岩主査、上條担当
日赤出席者 青山事務部長、笠原企画課長、斎藤主事
- 6 公開・非公開の別 非公開
- 7 記者 人
- 8 会議概要作成年月日 平成18年11月17日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- （1）開 会 （土肥部長）
- （2）会長挨拶 （西山会長）
- （3）伊那中央病院長挨拶
- （4）病院概要説明
- （5）院内視察
- （6）質 問 （委員）
- （7）閉 会 （西山会長）
- （8）事務連絡 （事務局）

2 審議概要

- （1）伊那中央病院概要説明（伊那中央病院事務部長）
 - ・当病院は当初344床であったが、本年4月に増床し394床となっている。
 - ・平成17年度の入院患者数は1日当たり平均319人、病床利用率は92.7%、外来患者は1日平均896人という状況である。
 - ・職員数は医師60名、助産師が23名、看護師303名、薬剤師18名、放射線技師14名、臨床検査技師22名、理学療法士8名、作業療法士3名、事務50名、委託職員が100名、総勢600人である。
 - ・17年度の病院事業収益は82億程、費用が85億で約3億の赤字となっている。
 - ・当病院の特徴は免震構造で、3種類の揺れを防ぐ。震度7の地震が来ても概ね震度3程度に防げる。震度3は棚から物が落ちるか落ちないか程度の揺れである。
 - ・後から建築した別棟は耐震構造である。建物自体が倒壊しない構造となっている。
 - ・1床当たりの延べ床面積は79㎡で、非常にゆったりとした部屋になっている。災害拠点病院の指定を受けていることから、4床室がいざとなった時には6床室として対応出来るようになっている。廊下にもベッドを置ける。講堂も酸素が吸入できる配管が施されており、救急ベッドの対応が出来る造りになっている。
 - ・オープンカウンターを取り入れ、アメニティの向上等にも配慮している。
 - ・救急関係の24時間体制については、地域の医師会にも協力を頂く中で、夜7時から10時30分までの間、交替で1次救急医療に携わっている。
 - ・事業費は概ね200億ちょっとの金額で出来ている。建設期間は28ヶ月、概ね計画通りに進んだ。
 - ・敷地面積は84,000㎡強（前の病院が14,000㎡）物凄いスペースを確保した。
 - ・本館の建築面積は8,000㎡以上、駐車場は1,000台確保した。月曜日は概ね1,000台がほとんど埋まる状況になっている。職員駐車場も含めた形になっており、職員が400台位占めてしまうので、600台位が患者の駐車場となっている。
 - ・施設の概要としては病院本館、付帯施設として医師看護師住宅、院内保育所、屋外リハビリ広場、ヘリポートといったところである。

- ・平成 10 年から用地取得を始めて平成 14 年 12 月に完成した。
- ・病院本館は地上 6 階で最高部 35.65m、1 床当たりの延べ床面積は 79.4 m²となっている。
- ・1 階は外来を中心に、2 階は手術室・検査・薬剤・医局・事務局が入っている。3 階からが一般病室になっている。
- ・診療科は既設 16 科に新設 4 科を加えて 20 科となっている。
- ・重点的には上伊那医療圏の中核を成している。災害拠点病院としてヘリポートを用意する中で、月 1 台～2 台が利用している。中央アルプスと南アルプスに囲まれた山岳地方であり、山間地からの搬送は救急車よりヘリの方が早いこともあり、そういった要請にも応えている。
- ・耐震構造と免震構造の違いであるが、耐震構造は建物そのものを壊れ難くし、地震の際は地震の揺れと共に揺れる。免震構造は揺れを少なくするものである。
- ・病院建設については委員会を設置した。当初は伊那市営の病院であったので、市として特別委員会を立ち上げて検討してきたが、平成 8 年から広域化ということで近隣の町村から一緒に検討させて貰いたい旨の要請があり、一部事務組合化をする中で建設を行った。
- ・病院の概況では 202 億の内、概ね建築工事費で 112 億程の費用が掛かっている。付属施設を含め、建設費総額では 125 億 6 千万円程の費用が掛かっている。
- ・伊那中央行政組合は病院事業の他に衛生センターとして、し尿処理業務を行なっている。
- ・決算状況については、17 年度 82 億といった状況になっている。17 年度決算の差引損益額では 2 億 9,900 万円程の赤字。非現金支出が 10 億あるが、資本的収支の 3 億程の赤字を加え、4 億 4 千万円程の現金収支の状況となっている。
- ・病院玄関の反対側にヘリポートと院内保育所、医師看護師住宅を配置している。
- ・玄関の回転ドアについては異論が多かったが、当院は高台の平地で風が強く、スライド式だと人が通る度に常に開けっ放しの状態が生じ、突風が中に吹き込むことから回転ドアをやめられなかった。センサーを通常の 4 倍程設置し、直ぐ止まるような対応を施した。
- ・2 階は手術室、集中治療室、医局、事務室が、一番良い所に人口透析の部屋を設置した。
- ・病棟部分の 3 階以上については同じ造りになっており、3 階には救急関係の HCU が西側に設置されている。何処からも眺めが良い形の部屋造りに心掛けた。
- ・通常、地下に発電機やボイラーといった機械室を設けているが、当院は免震構造のため 1 階・2 階の北側に配置をしている。効率が悪い部分もある。

(2) 質疑事項

委 員：院内保育所のニーズはどうか。どの位の時間帯で運営しているのか。

病 院：4 月の状況では 13 人程預かっていた。保育師が 3 名。時間帯は通常の市の保育時間と同じである。

委 員：個室割合は。

病 院：400 ベッドの内 80 室ある。

委 員：3 年間やられて個室の部分はどうか。

病 院：どちらかと言うと大部屋志向が多い。

委 員：1 床当たりの面積は別棟を含んでいるのか。

病 院：含んでいない。別棟は病室扱いになっていない。

委 員：検査室は中央検査室形式か。分散する考えはなかったか。

病 院：その通り。分散の考えはない。集中して管理していくことが主体で動いていた。

委 員：外来は各科固定外来か。各診療科でフリーアドレス的なものは……。

病 院：科を固定した形で対応をしている。

委 員：平均在院日数は。

病 院：12.8 晩位である。

委 員：今も 92.7%の利用率があるのか。

病 院：今は無い。一時は入れないクレームが多かったが、この周辺に民間病院が増え、4 月以降は 80%位である。

委 員：オペ室は中央ホール型か。

病 院：その通り。